

第2回奥多摩町観光産業振興計画策定委員会

日 時 令和8年8月24日（月）

午前10時00分～

場 所 奥多摩町役場地下1階 会議室

次 第

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

(1) 第1回ワークショップの結果について

資料-1 報告事項①P3

(2) あなたの好きな奥多摩教えてマップについて

資料-1 報告事項②P8

(3) 来訪者アンケートに実施について

資料-1 報告事項③P9

4. 議題

(1) 観光産業振興計画策定について

①計画のビジョン込めるべき「要素」について

資料-1 協議事項①P10～11

②町への誘客の想定ターゲットについて

資料-1 協議事項②P13

(2) 各係所管計画・協議会の検討状況について

①観光商工係

資料-2

②農林水産係

資料-3

③森林保全活用係

資料-4

(3) その他

諮問3

国立公園に内おける各種補助制度の活用について資料-5

5. 閉 会

奥多摩町観光産業振興計画策定委員会 委員名簿

【委員】

No	所属	役職	氏名 (敬称略)	備考
1	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員長	原島 俊二	
2	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	副委員長	原島 幹典	
3	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	小笠原 広志	
4	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	田治米 伸康	
5	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	増田 昭太郎	欠席
6	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	鈴木 清春	
7	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	塩野 廣行	欠席
8	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	青木 高幸	
9	奥多摩町観光産業振興計画策定委員会	委員	野坂 美穂	WEB参加

【事務局】

所属	役職	氏名	備考
奥多摩町役場 観光産業課	課長	大串 清文	
奥多摩町役場 観光産業課 観光商工係	課長補佐	小峰 淳一	
奥多摩町役場 観光産業課 観光商工係	観光産業振興アドバイザー	小林 雅樹	
株式会社 さとゆめ	プロデューサー	八間川 結子	

【オブザーバー】

所属	役職	氏名	備考
奥多摩町役場 観光産業課 農林水産係	係長	加藤 洋平	
奥多摩町役場 観光産業課 森林保全活用係	課長補佐	鈴木 敏春	
奥多摩町役場 観光産業課 森林再生担当	係長	原島 保	
奥多摩エリア沿線DMO協議会 沿線まると株式会社	コーディネーター	渡辺 舞	
株式会社 HIS	サブチームリーダー	日高 未紗子	

第二回 奥多摩町観光産業計画策定委員会 委員会資料

2026/8/24

計画策定業務委託事業者／株式会社さとゆめ
四者協定（奥多摩町・さとゆめ・沿線まるごと・HIS）

本日のご報告・協議したい事項

これまでの取り組みについてご報告し、さらに**計画の大きな方向性**（ビジョン・ターゲット）を協議・方向づけしたい。

■ 報告事項（共有）

・ 第1回ワークショップ

（7/1開催・21名参加、奥多摩町の「宝・課題・ありたい姿」を協議）

・ 好きな奥多摩マップ 掲示

（8/8～8/31・町内3箇所にて掲示中）

・ 来訪者アンケート

（8/8～8/31・町内14箇所にて掲示中。目標100件（5件/日*20）

■ 協議事項（ご意見をいただきたい）

・ ビジョン

奥多摩町観光産業振興計画に込めるべき「要素」の濃淡を議論

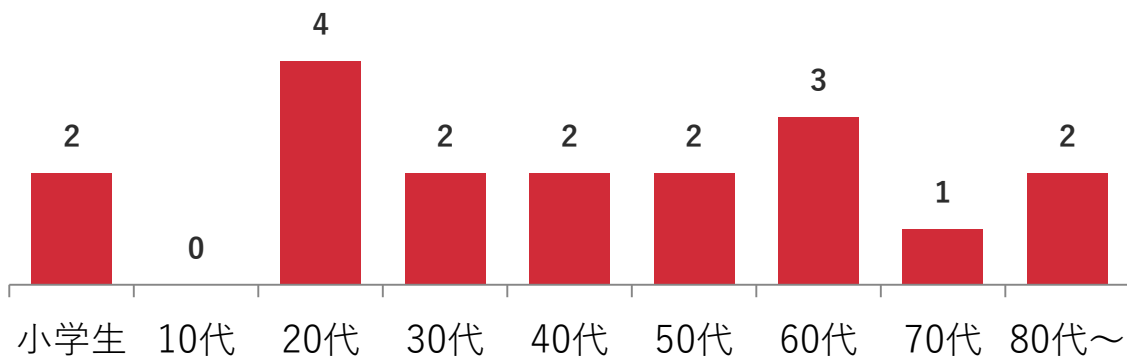
・ 想定する誘客ターゲット

①日帰り→滞在・再訪／②アドベンチャーツーリズム、サステナビリティ育成

・ （参考）目標指標の考え方 ※詳細は次回

第1回町民ワークショップ開催概要

- #### Q5 参加者の年代（小学生～80代の全世代）



全戸配布したワークショップ広報チラシ（一般・子供向け）

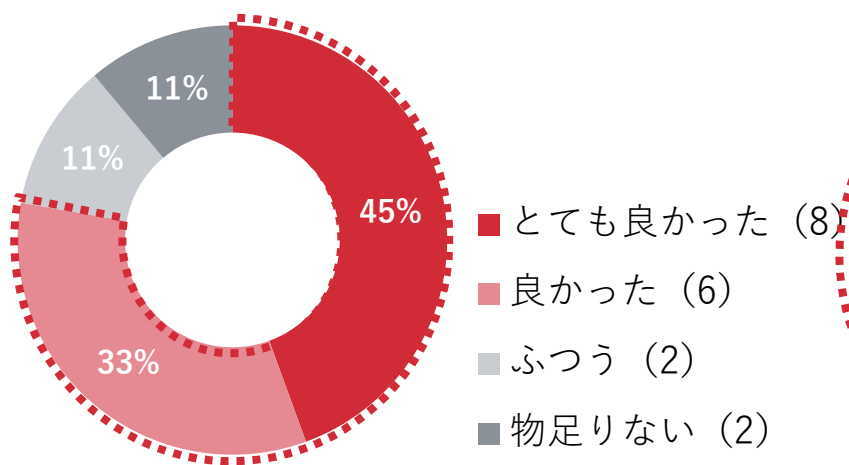


報告事項①

第1回ワークショップ参加者アンケート サマリー（有効 n=18）

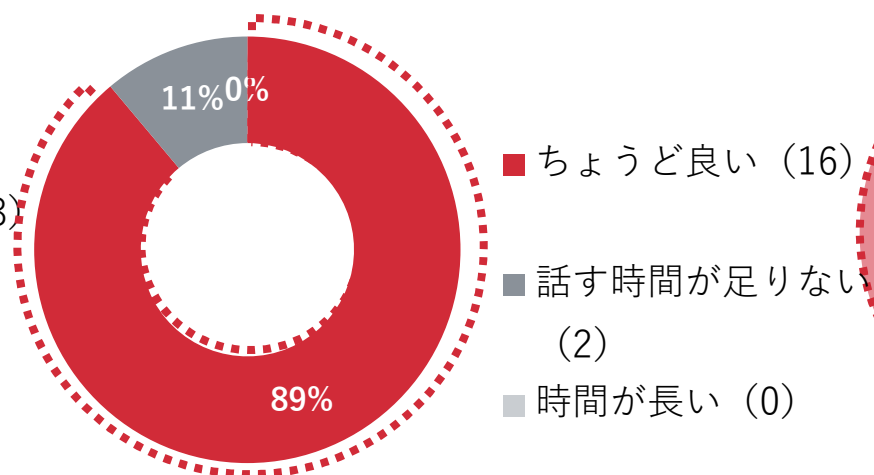
満足度は肯定78%、次回参加は前向き83%。→継続参加を促し、計画実行に向けた意識醸成に繋げたい。

Q1 ワークショップの満足度



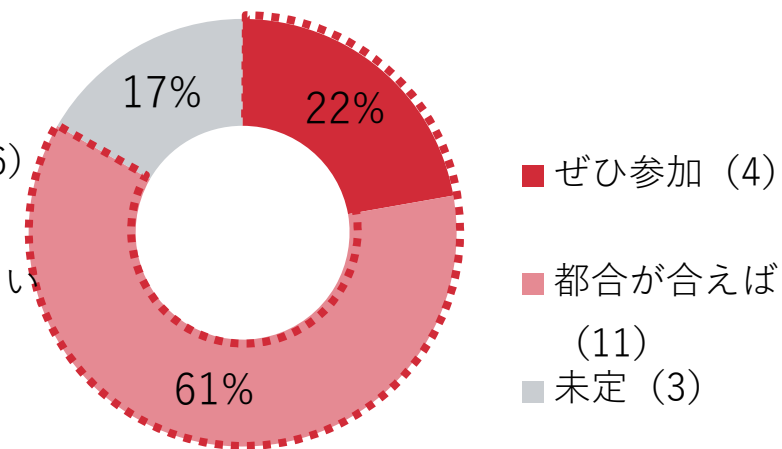
肯定 78%

Q2 進め方（時間・グループ・テーマ）



ちょうど良い 89%

Q4 次回（9/30）への参加意向



前向き 83%

報告事項①

第1回ワークショップにて出された声（宝・課題・ありたい姿）

町民の声を「宝・課題・ありたい姿」の3つに整理

①奥多摩町の「宝」

- 自然・景観（渓谷、鍾乳洞、湖、ダム清流、星空、森林、動物）
- 人柄・気質、一致団結
- 食・特産：わさび・わらび・蜂蜜・川魚・ジビエ・地ビール
- 都心から最も近い自然（駅からすぐ渓谷）
- 祭り・伝統芸能・歴史・古い橋/寺/神社

②奥多摩町の「もったいない（課題）」

- 移動の足＝二次交通・公共交通が弱い
- 店/宿/温泉/遊び場が少ない、電波・ネット弱
- 空き家・空き店舗が未活用
- 人口減・担い手/連携不足
- 素材はあるが商品化・発信が弱い
- 森林・鳥獣（鹿）の管理

③10年後の奥多摩町のありたい姿

- 森林経営・製材／養殖・漁／特産の商品化
- 若い世代増・移住定住・“奥多摩に住む”誇り
- 立川との広域連携・景観条例
- 道の駅／河原BBQ・キャンプ／誘致
- 名字・落人・カップパ伝説の物語化
- 計画より“実践”を（テーマは小分けで）

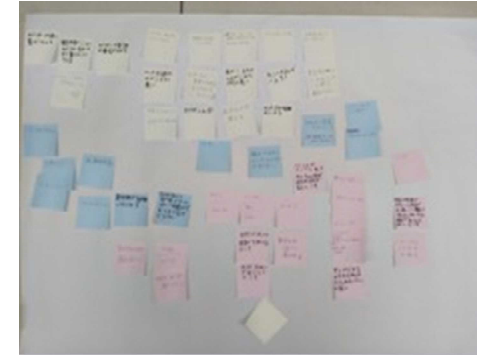
報告事項①

所感・第2回への示唆

- 多世代・高満足で好スタート。今後の委員会やワークショップでの施策具体化を進めるとともに、「主体者・自分ごと化」をワークショップなどを通じて進める。
- 第2回WS（9/30）は対話時間を厚く／テーマを絞る（「話す時間が足りない」の声）。
- 全3回の町民ワークショップは進めつつ、併せて個別具体の声を拾い反映するため、**古里小学校でのワークショップ、事業者向け、役場若手職員向けのワークショップをそれぞれ開催予定。**

報告事項①

ワークショップ開催の様子



報告事項②

「あなたの好きな奥多摩 教えてマップ」 掲示

ワークショップに来られなかった町民・子どもや、来訪者の声を広く拾うワークショップの補完、また計画策定の周知を兼ね実施。

- ・ **内容**：町のMAPへの直接書き込み式（ペン併設）
- ・ **掲示期間**：2026年8月8日（土）～8月31日（月）
- ・ **掲示先**：奥多摩駅・鳩ノ巣駅・奥多摩AUBA（アウバ）



報告事項③

来訪者アンケート（2026 夏）実施

沿線まると株式会社様が過去1年間実施されている来訪者アンケートを町内複数箇所で掲示・周知強化。

- ・ **実施**：2026年8月8日（土）～8月31日（月）／目標100件／全14問・約3分
- ・ **設置**：奥多摩総合開発観光施設（もえぎの湯、川井キャンプ場、氷川キャンプ場、はとのす荘、せせらぎの里美術館、氷川国際ます釣り場、四季の家）・大丹波釣り場・水と緑のふれあい館・JR川井駅、古里駅、鳩ノ巣駅、白丸駅、奥多摩駅・山鳩
- ・ **計画への活用**：施策（アクションプラン）や目標の策定にあたっての基準値として活用。
(Q6 日帰り→宿泊転換率／Q8 一人当たり消費額／ Q9 満足度（8点以上％）／再訪意欲)

集計サマリ

項目	概要
居住地	首都圏1都3県で90.5%（東京都60.0%・神奈川13.5%・埼玉11.5%・千葉5.5%）。東京都の内訳は 多摩地域66件>23区内40件
性別・年代	女性50.7%／男性45.3%。50歳代が最多29.9%、20～50歳代で76.6%
来訪目的	観光85.6%、その他10.0%、ビジネス3.5%
同行者	家族75.0%（有効136件中）、友人21.3%。単独訪問は32.3%
交通手段	JR在来線54.7%>自家用車35.3%>私鉄・地下鉄15.4%>路線バス10.4%
日帰り／宿泊	日帰り78.1%／宿泊21.9%。宿泊者の93.2%が1泊
リピート	初めて33.3%／10回以上27.4%と 二極化 。リピーター計66.2%
人気スポット	日原鍾乳洞44>奥多摩湖22>鳩ノ巣溪谷15>もえぎの湯11
エリア内消費	1人あたり平均 14,399円 （中央値6,000円）。日帰り8,157円／宿泊36,673円
満足度	平均 4.42/5.00 、満足+やや満足90.5%、「1不満」はゼロ

(n=201、2025-08-18～2026-08-16) ※2026/8/8以降は16件



奥多摩町観光産業振興計画目次（案）

第1章 計画の策定にあたって

第1回策定委員会ご報告事項

- 1-1 目的と背景
- 1-2 計画の位置付け 【第6期奥多摩町長期総合計画・観光立国推進基本計画・JSTS-D・東京都の観光産業振興実行プラン等との整合】
- 1-3 計画の期間
- 1-4 策定体制（事業者ヒアリング／来訪者・非来訪者調査／策定委員会／ワークショップ／パブリックコメント）

第2章 観光を取り巻く社会情勢と奥多摩町の観光の現状

- 2-1 観光に関わる社会動向（観光需要の回復と多様化／インバウンド需要の高まり、サステナブルツーリズムの世界的潮流、アドベンチャーツーリズムの拡大、デジタル活用の重要性／体験型観光への転換）
- 2-2 奥多摩町の観光の現状（立地・地勢（多摩川源流域、東京の水源、中山間地、東京都内という希少性）、人口動向（約4,500人・減少）、地域経済における観光産業の位置づけ、観光客の動向 【日帰り／宿泊比率・季節集中を重点分析】、来訪者・（非来訪者）アンケート、観光関連事業者ヒアリング／ワークショップ）
- 2-3 奥多摩町の観光にまつわる課題
 - ①日帰り偏重
 - ②宿泊施設の不足・老朽化
 - ③担い手・人材不足
 - ④駅から先の二次交通
 - ⑤季節集中・特定スポット集中 ⑥広域連携・産業連携の弱さ】

奥多摩町観光産業振興計画目次（案）

第3章 持続可能な観光に向けたビジョン

本日の議論

- 3-1 将来ビジョン
- 3-2 想定ターゲットとストーリー
- 3-3 基本目標指標 【ロジックモデルで整理】

第4章 持続可能な観光に向けたアクション

第3回策定委員会協議事項

- 4-1 重点プログラム
 - ① 日帰り通過型から滞在・高付加価値型観光への転換
 - ② アドベンチャーツーリズムの推進 — 「東京アドベンチャーライン」ブランドの深化
 - ③ 源流・水源地としてのサステナビリティを基盤とした観光地マネジメント
 - ④ 観光と地域産業（林業・わさび・食）の一体的振興／広域連携
- 4-2 A：持続可能なマネジメント（連携の場づくり／観光マネジメント組織／マーケ・プロモ／認証取得／進捗管理／防災）
- 4-3 B：社会経済の持続可能性（滞在拠点・宿泊、飲食事業の継承／観光と産業連携／人材確保／受入環境）
- 4-4 C：文化の持続可能性（集落景観／林業・わさび文化の継承／鹿島踊り・各種獅子舞などの郷土芸能）
- 4-5 D：環境の持続可能性（多摩川・水源林の保全／自然環境モニタリング／脱炭素／二次交通）
- 4-6 A～D 横断プログラム（観光人材の確保・育成／官民・広域連携／戦略的プロモーション／観光DX）

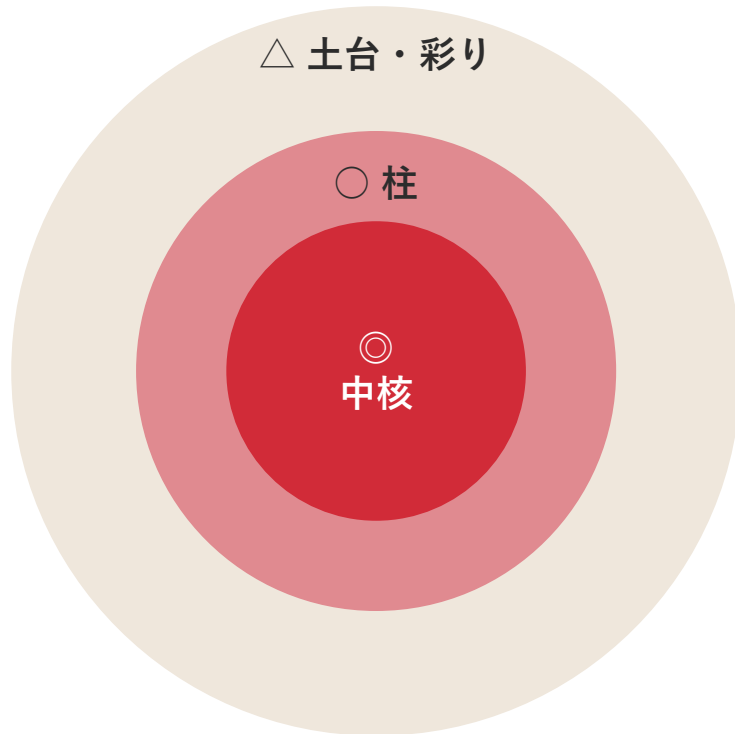
第5章 実現に向けた推進体制と財源

- 5-1 推進体制
- 5-2 財源
- 5-3 進捗管理（仮説検証型マネジメント）

協議事項①

計画のビジョン — 込めるべき「要素」を議論したい

ビジョンの言語化・策定に向け、込めるべき要素と「濃淡（何を核に据えるか）」を委員会で議論したい。



◎ 中核（前面に出す＝奥多摩でしか言えない固有性）

- ・町全域が国立公園（秩父多摩甲斐）× 多摩川の水源
- 住む人の誇りと生業（なりわい）／観光と暮らしのマッチ

○ 柱（計画で起こす変化）

- ・日帰り・通過型 → 滞在・再訪・関わりへ（最大課題の転換）
- ・首都東京にいちばん近い大自然（新宿から約2時間＝立地の武器）

△ 土台・彩り

- ・持続可能性（「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」＝進め方の背骨）
- ・物語・文化（祭り・伝統芸能等＝彩り）

協議事項②

奥多摩町への誘客の想定ターゲット

以下の想定ターゲットについてご意見をいただきたい。

【ターゲット】

① 主：首都圏・近隣の日帰りアウトドア/登山/行楽層 → 滞在・再訪

(＝最大課題「日帰り偏重」の転換／「都心から最も近い自然」を最も訴求できる)

② 育成：東京アドベンチャーライン起点のアドベンチャーツーリズム・サステナビリティ志向層（国内＋インバウンド）

(＝町の既存ブランド／東京都内の希少性)

【深化レイヤー＝ターゲットと分ける】

再訪 → 関係人口 → 移住・定住（ワークショッップでも声のあがった「住む誇り・若い世代の呼びこみ」につながる）

アンケートから見える現状の来訪者像（ご参考）

現在の来訪者層	割合	来訪概要	消費単価
① 初回～数回の定番周遊層	101件（50%）	鍾乳洞・湖・ダム・温泉を巡る。都外からも来る	5,544円
② 4～9回目の移行層	44件（22%）	定番中心だが山・トレッキングが混じり始める。宿泊率34%と最も高い	8,338円（最高）
③ 10回以上の常連層	55件（27%）	山・むかし道が主戦場。日帰り80%、都内近郊在住	6,556円

初回来訪者をどうリピーターに繋げるのか。
単価をどう上げていくのか。

→次回検討事項

奥多摩町観光産業振興計画・観光商工係関連

小口事業資金融資制度等審議会**(1) 現行規則・要綱**

- 奥多摩町小口事業資金融資規則
- 奥多摩町小口零細企業保証制度融資規則
- 奥多摩町小口事業資金融資信用保証料補助要綱
- 奥多摩町小規模事業者経営改善資金利子補給金交付要綱
 - 将来像「町内事業者における経営の安定と事業の健全な発展を図る」
 - 施策
 - 1. 設備・運転・開業資金融資
 - 2. 信用保証料補助
 - 3. 利子補給金交付
 - ➡融資限度額の引き上げ ～ 規則の改正
 - 青梅商工会議所奥多摩支所との連携

(2) 課題

- ◎現行規則・要綱の評価
 - ～町内事業者への支援の仕組みの整備
- ◎創業・開業支援事業の不足

(3) 6期長計の内容

- ◎コンセプト「活性化」
 - 将来像1「生まれる・育む・挑むまちづくり」
 - 施策の方向性 ②起業の支援
 - 取組み例
 - 起業の促進・新規事業支援
 - 創業支援の推進

(4) 今後の方向性（観光産業振興計画での位置づけ）

- ◎上記（2）課題の解決、（3）6期長計の実現
- ◎創業スクールの活用（運営：青梅商工会議所、青梅信用金庫）
- ◎創業・起業講座の実施
- ◎創業者支援の補助金の検討（開業祝金、改装費補助等を含む）
- ◎そのほか各委員からの意見

奥多摩町観光産業振興計画・農林水産係関連

内水面漁業振興事業協議会

(1) 現計画

◎内水面漁業振興計画・・・7年度までの規定

将来像「楽しみ・たたずむ溪流美 奥多摩～釣り。グルメ、山里の魅力～」

施策 1. 管理釣場の魅力の向上

2. 養殖の推進

3. 遊漁の推進・生態系の保全

4. 川を通じた交流・人材交流

➡施設整備事業（ハード面）～都補助活用

ソフト面の取組み

(2) 課題

◎現計画の評価

～ハード事業は計画通りか？

ソフト面取組みはコロナ禍もあり未達成か？

◎各釣場の体制確保・経営安定化

～高齢化・地域おこし協力隊の活用

構造的な赤字経常

(3) 6期長計の内容

◎コンセプト「活性化」

将来像3「賑わう・満ちる・巡るまちづくり」

施策の方向性 ②観光資源の活用

取組み例 ○内水面漁業や自然系アクティビティ等の活用

(4) 今後の方向性（観光産業振興計画での位置づけ）

◎上記（2）課題の解決、（3）6期長計の実現

◎奥多摩やまめ（やまぼこ）の活用

◎そのほか各委員からの意見

釣場でのアンケート調査を実施するか

（実施の場合は次回までに集計・分析要）

農林業等振興事業協議会

(1) 計画

◎個別計画・・・なし（これまで長計の分野別に記載）

長計・観光分野

「みんなの力がつながる観光・産業づくり」

- 施策 1. 奥多摩だからこそその体験・交流観光の展開
2. 奥多摩ならではの地域産業の推進
3. 観光・産業づくりを推進する力の強化
※主に観光商工係、農林水産係も関連

(2) 課題

◎現計画（5期長計）の評価

～農林産物グループへの支援、出荷・販売の仕組みの整備

◎放牧場（条例存置も事業撤退）の放置・ワラビ等栽培事業の停滞

◎都民の森・蕎麦打ち施設の未活用

(3) 6期長計の内容

◎コンセプト「活性化」

将来像1「生まれる・育む・挑むまちづくり」

施策の方向性 ③観光資源の開発

取組み例 ○新たな特産物の開発・開発支援の充実

将来像2「創る・繋がる・広がるまちづくり」

施策の方向性 ②幅広い世代が参加できる事業の充実・開拓

取組み例 ○観光客や関係人口の参加できる事業の開拓（体験農園）

将来像3「賑わう・満ちる・巡るまちづくり」

施策の方向性 ②観光資源の活用

取組み例 ○内水面漁業や自然系アクティビティ等の活用

○わさび・治助イモ・鹿肉等の特産物の活用

(4) 今後の方向性（観光産業振興計画での位置づけ）

◎上記（2）課題の解決、（3）6期長計の実現

◎そのほか各委員からの意見

新たな特産物（柚子・熊活用など）の開発か、現在の特産物の推進か

治助イモ普及促進協議会・農業推進協議会は9月下旬開催・第3回策定委で報告

奥多摩町観光産業振興計画・森林保全活用係関連

林業振興事業協議会

(1) 現計画

- ◎木質バイオマス利活用計画・・・・・・平成23年2月策定
木質資源循環システム構築計画・・・・平成24年2月策定
→チップを確保できず、もえぎの湯の木質チップボイラー不具合により、
地域通貨も普及せず計画頓挫
→計画廃止、大幅見直し・新たな計画要
- ◎森林整備計画・・・・令和8年4月樹立・10か年計画
→森林整備の基本方針
 - (1) 地域の目指すべき森林資源の姿
 - (2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方針
 - (3) 森林施業の合理化に関する基本方針
- ◎長計・観光分野
「みんなの力がつながる観光・産業づくり」
施策 1. 奥多摩だからこそその体験・交流観光の展開
2. 奥多摩ならではの地域産業の推進
「森林の整備と木質資源の活用」
3. 観光・産業づくりを推進する力の強化
※主に観光商工係、森林保全活用係も関連
→未達成の取組み
 - ① 木質バイオマス資源利活用システムの推進
 - ② 森林ボランティア、交流観光と連携する取組み
 - ③ 木材搬出の促進

(2) 課題

- ◎上記取組みの実現可能性
- ◎東京都森林再生事業・花粉症対策との調整
- ◎森林環境譲与税（基金）の活用

(3) 6期長計の内容

- ◎コンセプト「持続化」
将来像1「サステナブルなまちづくり」
施策の方向性 ①資源を活かす・大切にするまちづくり
取組み例 ○森林再生事業・木質資源の活用
- ◎コンセプト「活性化」
将来像2「創る・繋がる・広がるまちづくり」
施策の方向性 ①広域連携の推進
取組み例 ○他自治体との連携（森林環境譲与税／協議会・都内連携）

(4) 今後の方向性（観光産業振興計画での位置づけ）

◎上記（２）課題の解決、（３）６期長計の実現

◎国の施策

- ・令和８年６月策定・新たな「森林・林業基本計画」を閣議決定
→「森業（もりぎょう）の推進」～山の地方創生～
- ・森林空間利用に向けた林野庁の取組み
→地域支援（森林サービス産業推進地域＝奥多摩町）
- ・企業による森林づくり
→森林と企業のつながり（野村不動産・つなぐ森）

国立公園等資源整備事業費補助金について

資料-5

- 《共通事項》
- ・R8年度執行団体 公益財団法人北海道環境財団（R7年度執行団体）
 - ・補助事業（種類） 以下の2事業（R8追加補助メニュー、要件変更（追加）あり）
 - ・補助対象者 民間企業／個人事業主／観光協会／地方公共団体 等
 - ・対象公園等 国立公園および国定公園（いずれも詳細条件あり。多言語は他自然観光資源含む）



国立公園等利用拠点滞在環境等上質化事業 (P2～)

【補助メニュー概要】（いずれも詳細条件あり）

- ・利用拠点計画策定（主に地方公共団体向け）
- ・利用拠点計画等に基づく以下の事業
 - －廃屋撤去事業
 - －インバウンド対応機能強化事業
（多言語サイン、公衆無線LAN、トイレ洋式化）
 - －文化的まちなみ改善事業
（外構整備、建築の外観整備、給排水設備等の除去等）
 - －既存施設観光資源化促進事業
（キャッシュレス対応等のインバウンド受入環境整備を前提とした内装整備や設備整備）
 - －引き算の景観改善事業
（無電柱化、通景伐採、景観を阻害する工作物の撤去、駐車場の緑地化）
 - －利用拠点滞在環境改善事業
（建築物等の撤去、賑わいや憩いの場の形成）
 - －国立公園等核心地利用施設改善事業
（山小屋の内装、外装等の改修、外構整備 等）
 - －国立公園ならではの宿泊施設整備改善事業
（「国立公園ならではの宿泊施設ガイドライン」を踏まえた設備等の整備・改修）

予算額・補助率 約12億円・1/2以内（一部2/3以内）
申請上限なし（予算の範囲内）



国立公園等多言語解説等整備事業 (P12～)

【補助メニュー概要】（いずれも詳細条件あり）

- －ICT等を活用した多言語解説に向けた設計・整備、多言語案内板の整備・改修、展示物の多言語化、多言語解説アプリ・コンテンツ作成 等
- ※国立公園、国定公園、国民公園、世界自然遺産、ラムサール条約登録湿地、長距離自然歩道の区域内で多言語解説を行う事業のほか、「区域外」においても上記の公園等への誘客の拠点（バスターミナルや道の駅、観光案内所等）に設置するもので、公園等の紹介を含む案内板等も対象。

予算額・補助率 約1億円・2/3補助
申請上限なし（予算の範囲内）

各補助メニューの詳細条件等はP2以降
および公募要領（※）をご参照ください。

※公募要領は、「北海道環境財団 国立公園等資源整備事業費補助金」で検索してご確認ください。